

# 金婚式

⑥写真  
大江輪番を挟んで井澤ご夫妻  
(写真手前) とご親族の皆さま

1月30日、長年西山別院の責任役員兼総代をお引き受け頂いている、井澤豊さんと、その妻弘江さんの結婚50周年を記念して、金婚式を対面所で執り行いました。当日はご親族も各地からお越しになられ、50年の節目をご仏前で共にお祝い致しました。金婚式の執行は西山別院では初めて。お寺にとっても記念すべき日となりました。



## ★きれいなお写真ありがとうございます！



本年元旦の山門前雪景色を、別院向かいにお住まいの辻井三博さんがカメラに収めて下さいました。

**お寺で記念日のお祝いを!**  
西山別院では「金婚式」をはじめ、「銀婚式」「誕生日」などの各種記念行事の「依頼を承っています。その他「初参式」(生れて初めてお寺にお参りする儀式)や「結婚式」の実績もあります。仏教徒として、「仏前で○○の記念を祝いたい」「等」「要望がございましたら、どうぞお気軽に別院寺務所までご相談ください。

## 四月の法要

- 4月22日(金)  
PM2時～【本堂】  
覚祖会速夜法要  
法話 福岡教区 安武真哉師
- PM7時～【本堂】  
覚祖会初夜法要  
法話 安武真哉師
- 4月23日(土)  
AM7時～【本堂】  
覚祖会晨朝法要  
法話 別院輪番 大江智朗師
- AM10時～【本堂】  
覚祖会日中法要  
法話 安武真哉師



## 親鸞聖人七五〇回大遠忌法要 団体参拝参加者募集!

いよいよ今月から本願寺にて「親鸞聖人七五〇回大遠忌法要」が始まります。法要期間中には、国宝飛雲閣の特別公開、龍谷ミュージアム(四月五日オープン)「釈迦と親鸞展」、また本願寺門前町では、市場(マルシェ)が約六〇店舗出店されるなど、様々な催しが開かれます。当別院ではご門徒の皆様方とともに、この五十年に一度のご縁に遇わせて頂くべく、団体参拝を計画いたしました。皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。

- 【参拜日】 第1回 9月9日(金)  
第2回 11月13日(日)  
※両日ともに時間未定
- 【募集人員】 両日ともに30名ほど
- 【場所】 堀川六条 西本願寺 他
- ※詳細は後日別書面にてご案内申し上げます。

## ●「東北地方太平洋沖地震」被災地に義援金を!

本年3月11日に発生した日本観測史上最大の「東北地方太平洋沖地震」。その被災地復興を願って義援金を募集いたします。集まった義援金は本願寺緊急災害対策本部へ寄託し、被災地の復興に役立てられます。何卒皆さまのお力添えを賜りますようお願い申し上げます。(別院寺務所にて受付いたします)

本願寺西山別院報

# 久遠

〒615-8107  
京都市西京区川島北裏町29番地  
Tel: 075-392-7939  
Fax: 075-394-4416  
発行者: 大江智朗

★「浄土真宗の生活信条」を味わう

## み仏の教えにしたがい

輪番 大江智朗

●仏に成る教え

教育ほど大事なものはありません。ただ間違った教育は危険です。宗教も同様です。だが日本の現状はいかがでしょうか。教育も宗教も混乱し危機的状況にあると言わざるを得ません。その結果、地獄・餓鬼・畜生の満ちた社会を露呈し未来に希望のない閉塞感に苦悩しています。「宗教なき教育は悪魔を造る」とも、今日のキョウウイフは狂育だとか、凶幾とも言われます。どのような教えに従うかによって、その人の人生は決まるとも言えます。

表題の「み仏の教え」とはお釈迦様の教えです。それは同時に、仏に成る教えでもあります。仏に成るといふのは、死体になるといふことではありません。死体は動きません。やがて火に焼かれるか朽ち果てていきます。仏は永遠のいのちをもって、生き生きと活動します。仏になるといふことは、死ぬということではなくて、智慧と慈悲の活動体になることです。

「したがう」とは、従う、随う、遵うという文字があります。随順するということ、敬いの気持ちで素直にまかせるということとです。そして、「教えにしたがう」とは「教えを聞く」ということになりません。

●仏法は聴聞に極まる

古代ギリシャの哲学者ゼノンが「人間の口は、食べると話すの二つの機能があるの」、一つしかない。耳は聞くという一つの機能しかないのに二つある「だから」話すよりも四倍よく聞け」と言ったそうです。人間にとって如何に聞くことが大切であり、大事なことであるかを示しています。

「聞きわけて」行くのです。特に浄土真宗は聴聞の宗教です。蓮如上人は「仏法は聴聞に極まる」と仰せられました。

また、親鸞聖人の「著書」教行信証」では「聴聞」の左訓(解説)として、「ユルサレテ

キク・シンジテキク」と記されています(行巻、『平等覚経』引文「楽聴聞世尊教」)。

浄土真宗の「信心」とは私が信じる心ではなく、阿弥陀仏の「われをたのめ、必ず救う」といふ働きを聞きわけて、疑いなく受け入れる心です。私が信じることを「自力の信」といいます。浄土真宗の他力(阿弥陀仏の働き)の信とは、仏様が私を助けようとする働きを疑いなく聞き分けることです。

そこには救われていく喜びと、永遠の未来に開け行く明るさがあります。その人間としての根源的な喜びは自然にまわりを明るくします。

善導大師は「自ら他力の信を頂き、その信を他に教えることは難しいが、如来の真実を伝えることは、仏恩に報いることである。」とお示し下さいました。念仏を頂いた人、即ち信心の行者は、すべからず伝道者であり、ということとです。「まことのみのりを聞き分け、心るめ」「つまり」「全眞聞法」・「全眞伝道」が叫ばれる所以です。

浄土真宗の生活信条

「み仏の教えにしたがい 正しい道を聞きわけて まことのみのりをひろめます」

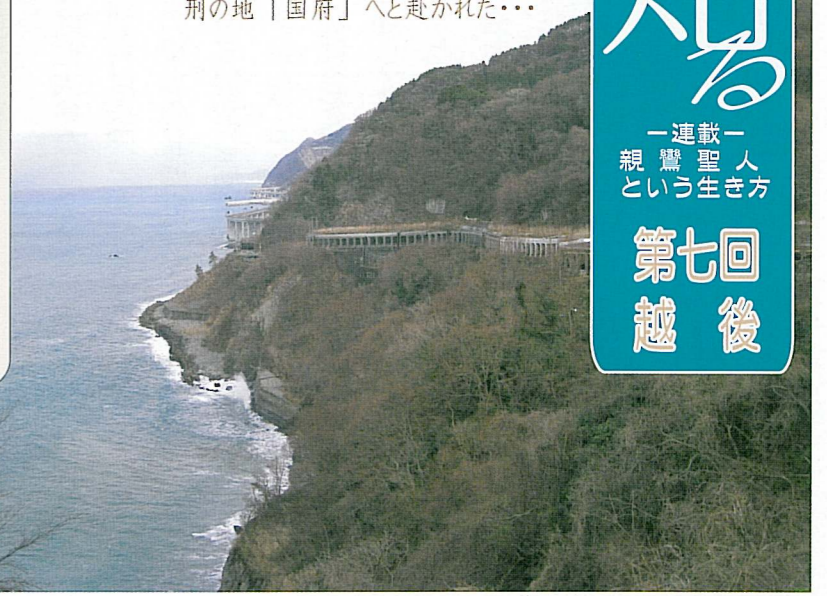


# 知る

一連載一  
親鸞聖人  
という生き方

## 第七回 越後

断崖の続く新潟県「親不知」。  
この難所を通って、親鸞聖人は流  
刑の地「国府」へと赴かれた...



承元元年(一一〇七)、「承元の法難」によって流罪の身となった親鸞聖人は、配所である越後国府(現新潟県上越市直江津)に向けて京都を出発されます。その道程は琵琶湖を船で渡り、今津から越前・加賀・越中と進んで、親不知の難所を抜け、小野浦から再び船で国府居多ヶ浜へ向かわれたと伝えられています。  
このたび、聖人の足跡を辿り、冬の越後を訪れてみました。

### ●流刑地にて

車を駆って親鸞聖人流刑の地、国府の居多ヶ浜に到着してみると、小雪混じりの冷たい海風が吹きすさび、テトラポットに打ち寄せる日本海の荒波が飛沫を高くあげていました。冬の越後は豪雪地帯で知られる過酷な土地です。一晩で車は雪に埋まり、発進するには先ず雪かきとチェーン装着の肉体労働から始まります。連日こんな調子ではたまらないと思いつつ悪戦苦闘する私の傍らで、地元の方は例年はまだまだこんなもんじゃないと朗らかに笑っておられました。(㊦一晩で雪に埋もれた自家用車)



### ●越後での生活

この厳しい冬を親鸞聖人はどのように過ごされていたのでしょうか。実は、越後での暮らしぶりを伝える確かな資料は現存していません。古い記録によれば流人は日に米一升と塩一勺が与えられ、ある期間が過ぎれば支給された穀物の種を自ら栽培して食べていかねばならなかったようです。しかしながら、越後には聖人の伯父日野宗業が官人として在任しており、その関係から流人といえどもかなりの自由が許されていたと考えられます。越後時代、妻惠信尼公との間で六人の子に恵まれていたことから、その事実が窺えます。



### ●妻惠信尼公の支え

惠信尼公と親鸞聖人の出会いは、京都時代に遡るといわれます。お二人がいつごろ結婚されたのか定かではありませんが、流人となられた聖人と共に越後へ赴き、失意の聖人に、常に寄り添っていたらっしゃいました。

大正十年(一九二一)、西本願寺の宝庫から、惠信尼公のお手紙が発見されました。名利を嫌われた親鸞聖人の歴史資料は極めて限られており、当時聖人の存在さえ疑われていましたが、このお手紙によってその疑念が払拭されたばかりか、お二人の人となりも知れるところとなりました。

惠信尼公はお手紙の中で、光の中から現れた観音菩薩が実は親鸞聖人だったという夢を見たことと記されています。お手紙の筆跡から惠信尼公が高い教養を持ち、他力念仏の教えを深く領解されていたことが分かりますが、聖人を仏法を弘める観音菩薩の生まれ変わりとして深く敬愛し、生涯に亘り支え続けていらしたことが分かります。

### ●思惟の時期

聖人はそのご著作において、「大心海」や「智海」のように、阿弥陀様の大慈悲を「海」の字にたとえた経典や高僧の言葉を多数引用されています。聖人が実際に海の見える土地で生活されたのは、生涯で唯一、越後での七年間だけです。広大な海に阿弥陀仏のお慈悲を重ね合せ、恩師法然聖人のみ教を更に深めて行かれたのではないのでしょうか。

その成果は後年の大著「教行信証」となって顕われます。

流刑という苦難は、惠信尼公をはじめとする多くの人々の支えの中で、浄土真実のみ教えを大成する貴重な下地「思惟の時期」となったのです。

【次号に続く】

### 前回のあらすじ

隆盛を誇った法然教団は「承元の法難」によって、大きな危機に晒されます。門下四名が死罪。法然聖人も門下七名と共に流罪となり、その中に親鸞聖人も含まれていました。濡れ衣のような罪を背負われ越後配流の憂き目に遭いつつも、親鸞聖人はこれを伝道の機縁と捉えられ、お念仏を世に弘める信念を新たにされたのでした。

## 鐘楼堂の修復完了!

去る、2月10日、鐘楼堂屋根瓦の葺き替えを終え、修復工事が完了いたしました。骨組の修復に当たった宮大工の入江氏(木澤工務店)からは、「想像以上に屋根の傷みが激しく、棟木・梁など主要な部材を多く取り替えたので100年はもつ。ここまで修復できたことは大工として値打ちがある。」とのお墨付きを。屋根瓦は使用可能な古瓦を残しつつ葺き替えるという難しい作業で、老舗の竹村瓦商工会が施工。半年の修復期間を経てようやく完成の運びとなりました。これにより、おかげさまで本年末から「除夜の鐘つき」を再開させて頂くこととなりました。皆さまの温かい御志に、心より厚くお礼申し上げます。

本年末より  
「除夜の鐘つき」を再開

親鸞聖人  
七五〇回  
大遠忌法要  
記念事業



わかりやすい

第五回仏教講座

## 「正信偈講読」

- 日時/ 2011 (平成23) 年4月24日 (日曜日) 午前10時~正午まで
- 場所/ 対面所 ●受講料 500円 ●講師/ 大江智朗師 (西山別院輪番)

受講生募集! 途中受講でも気軽に学べる仏教講座です。

### 妙高高原/赤倉温泉

新潟県妙高市赤倉温泉郷

雄大な自然を望む国立公園妙高高原。スキー場としても有名だが、親鸞聖人が発見し村人に伝えたといわれる名湯「赤倉温泉」が魅力。上越市から南へ車で1時間。



流刑の地、居多ヶ浜。聖人はこの浜から海を眺めつつ、思索に耽られたのでは...

### 本願寺国府別院

新潟県上越市国府1-7-1  
電話025(543)2742



親鸞聖人が国府で住まれた草庵を御旧蹟として建てられた。居多ヶ浜からほど近く、JR直江津駅より車で5分。

尚、国府別院より車で南東に三十五分ほど走らせた上越市板倉区には、聖人の妻惠信尼公の御廟所(国府別院飛地境内)がある。公自身の発願により建てられた七尺の「五重の石塔」が現存する。